

時間学アフタヌーンセミナー in 東京 & in 福岡を開催

ハイライト

・時間学アフタヌーンセミナー

目次：

時間学アフタヌーンセミナー in 東京 & in 福岡	1
時間学アフタヌーンセミナー in 東京「日記と時間」	2
時間学アフタヌーンセミナー in 福岡「時間と災害」	2
明石真教授が「ガリレオX」出演	2
時間学セミナー 「生物の発生と進化の時間」	3
時間学だより ・見たくない夢	3
今後のお知らせ ・第一グループセミナー 「時間と神経-学習機能のメカニズム-」	4
・第三グループセミナー 「哲学の視点から」	
・時間学特別セミナー 「多様体補正法による力学系の長期間数値積分」	
明石教授の著書 『体内時計のふしぎ』出版	4

恒例の時間学アフタヌーンセミナーを、本年度は東京と福岡にて開催しました。



時間学アフタヌーンセミナー in 東京は、平成 25 年 9 月 14 日（土）、キャンパス・イノベーションセンター東京（東京都港区）にて開催しました。

東京でのセミナーのテーマは「日記と時間」。森野正弘准教授（山口大）のコーディネートのもと、宮崎莊平先生（時間学研究所・客員教授、新潟大）と大内英範先生（筑紫女学園大学）をお招きして、平安女流日記文学の『蜻蛉日記』を題材に時間意識や時間叙述

についてのお話をいただきました。

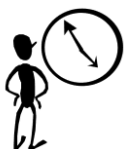
時間学アフタヌーンセミナー in 福岡は、平成 25 年 11 月 30 日（土）、福岡市・リファレンス駅東ビルにて、開催しました。

福岡でのセミナーのテーマは「時間と災害」^{さんがわあきら}。寒川 旭 先生（産総研）、曾根好徳先生（名古屋大）、山本晴彦教授（山口大）、鈴木素之准教授（山口大）、今林隆史記者（RKB 毎日放送）といった多様な分野からの演者をお招きして、進士正人所長の司会進行のもと、自然界がもたらす様々なリスクに対してどのような思考と方策をもって向きあうべきか、というアクチュアルな課題について〈時間〉をキーワードにご講演いただきました。

詳細は次ページをご覧ください。

時間学研究所ニュースレター
2013 年度 第 3 号をお届けします。今回は時間学アフタヌーンセミナー in 東京 & in 福岡の報告を中心にお届けします。

《時間学研究所》
〒753-8511
山口市吉田 1677-1
TEL/FAX083-933-5848
jikann@yamaguchi-u.ac.jp
www.rits.yamaguchi-u.ac.jp



東京会場のようなす



福岡会場のようなす

時間学アフタヌーンセミナー in 東京「日記と時間」を開催

三池秀敏副学長の開会挨拶のあと、大内英範先生（筑紫女学園大学文学部・准教授）にまずご登壇いただき、「蜻蛉日記の時間意識」について、実人生、作品内人生、執筆過程の人生という三つの時間軸が提示され、そこにかがえる時間意識の諸相について論が展開されました。



大内英範先生



宮崎荘平先生

続いて宮崎荘平先生（時間学研究
所・客員教授、新潟大学・名誉教授）によるご講演「日記文学における時間叙述—『蜻蛉日記』における閏年・閏月—」では、蜻蛉日記は、上・中・下巻と三分割される作品構成において、中・下巻では閏月に関する叙述があるのに対し、上巻では欠落しているという現象が提示され、閏月という時間叙述の有無を通してうかがえる作品成立の事情が論じられました。

会場は50名の参加者で埋まり、講演後に行われたパネルディスカッションでは、講演者間の議論に触発されて会場からも着豊かな質問や感想が寄せられました。

時間学アフタヌーンセミナー in 福岡「時間と災害」を開催

三池秀敏副学長の開会挨拶のあと、寒川旭先生（独立行政法人産業技術総合研究所・客員研究員）にご登壇いただき、遺跡と古文書記録から巨大地震のサイクルを歴史的・長期的に再構成する地震考古学的手法と意義についてわかりやすくご講演いただきました。



寒川旭先生

続く菅根好徳先生（名古屋大学減災連携研究センター・副センター長兼教授）のご講演では、余震・誘発地震を含む重大なリスク性ならびに災害リスク^{ていげん}逡滅のための被災記憶の超世代的な継承の重要性について実際の映像などを交えつつお話しいただき、山本清彦教授（山口大学農学部）からは、時間的・地理的によりきめ細かいデータを必須とする今後の気象防災情報のあり方について、九州北部豪雨の精緻な解析結果をもとに講演いただきました。



菅根好徳先生

鈴木素之准教授（山口大学大学院理工学研究科）の講演では、土石流災害を具体例に長期的スパンでの災害リスクの評価の必要性とその具体的方法論（「時間防災学」）の概要を説明され、今林隆史記者（RKB毎日放送株式会社 報道部・記者）には、災害時の人びとがメディア報道に大きく依存している現状とその問題性について報道番組制作者としての立場からご提示いただきました。

刺激的で実践的な知見がわかりやすく紹介される各講演の内容に、参加した市民の方々も大変熱心に聞き入っていました。

講演後には山本先生ご司会で講演者全員による討議が行われました。



山本清彦教授



鈴木素之准教授



今林隆史記者

明石教授「ガリレオX」に出演

平成25年11月10日（日）11:30~12:00、BSフジで放送された「ガリレオX」#64 “内なる時計の謎 ～心を感じる時間・からだを流れる時間～”に本研究所の明石真教授が出演しました。この回は、私たちが感じている時間、物理的な時間、そして生物が体内に備えている時間についての研究やそのしくみについての特集でした。明石教授は、そのなかで、生物に備わる体内時計について解説しました。



明石真教授

番組の内容はBSフジのHPでも紹介されております。
http://web-wac.co.jp/program/galileo_x/gx131110

第27回時間学セミナー 「生物の発生と進化の時間学」を開催

平成25年12月20日（金）、時間学研究所・第2研究グループ（リーダー：岩尾康宏教授・医学系研究科）は、本学吉田キャンパス理学部第13番講義室にて、第27回時間学セミナー「生物の発生と進化の時間学」を開催しました。

セミナーでは、初めに岩尾教授から開会の挨拶があり、その後以下の4題の講演が行われました。

- ・『コンディショナルなRNAiシステムを用いたミトコンドリアのアデニル酸キナーゼAK2の生理機能研究』
青山 修平（医学系研究科 発生遺伝学研究室）
- ・『食事による末梢時計の調節機構』
佐藤 美穂（時間生物学研究室・学術研究員）
- ・『運動野ニューロンにおけるAMPA受容体を介した運動学習のメカニズム』
木田 裕之（医学系研究科 システム神経科学・助教）

- ・『哺乳類ではなぜ多倍体は生まれないのか？』
加納 聖（共同獣医学部 獣医発生学分野・准教授）

第2研究グループは主に生物学領域の研究者で構成されています。研究対象は極めて多岐にわたっており、本発表では発生や運動学習のような不可逆的時間と体内時計のような可逆的時間の流れを対象とした研究成果が紹介されました。講演の後には質疑応答の時間が設けられ、様々な質問が寄せられました。質疑の内容は、素朴な疑問から研究成果の今後の進展を期待する発展的なものまで多岐にわたり、研究者相互に刺激的で有意義な時間となりました。

最後に進士正人所長（時間学研究所）の閉会の挨拶をもって盛況のうちに終了となりました。



青山修平さん



佐藤美穂研究員



木田裕之助教



加納聖准教授

時間学だより

見たくない夢

この歳になっても、教室で堅い椅子に座らされて試験を受けている夢をときどき見る。夢の中の私はいつも問題が解けなくて苦しんでいる。講演直前に準備したはずのスライドが見つからず、慌てて取りに帰る夢の時もある。そんな夢を見た後は厭な汗をかき、身体に重い疲れが残る。もう学生の試験から開放されて45年、学会に行かなくなってからでも5年経つというのに、あの不安と恐怖は身に染みついてしまっている。とても健康な精神を保っているとは思えない。これはアフガンの兵士が国へ帰ってからも鬱や幻影に苦しむというPTSD (Posttraumatic Stress Disorder) の一種なのか？

無理なことを言う論文のレフェリーに、口には出さずとも、何度も罵りの言葉を浴びせられ、予算を付けなかった基金の審査委員のエライ先生や意地悪としか思えない要求をしてくる理事先生を、見えないところで呪った事もある。見たくない夢は他人を出し抜き、競争に勝つということに長く心を奪われていたせいなのかもしれない。それならば仏教で言う修羅の苦しみと呼ぶほうがふさわしい。

仏教では人の魂は天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道からなる六道を彷徨うとされている。見たくない夢は来世の修羅道行きの証なのか。競争に勝つことが正義で、競争こそが世界を進歩させると信じているような現代のこの世は既に修羅道があちこちに現出している有り様だ。それ故修羅道に行っても、この世と変わりなく過ごせるだろう。

いやいや、安心は出来ない。日蓮は「此の国の人々、今生には一同に修羅道に墮し、後生には皆阿鼻大城地獄に入らん事 疑い無き者なり」と言っている。生きているうちから終始戦い、他人を非難してばかりいると修羅道では留まらず、地獄に落ちるらしい。

時間学がこの世の修羅を取り除いてくれるまでは、見たくない夢から今夜も逃れられそうもない。

井上 慎一（時間学研究所・初代所長）

今後のお知らせ

下記の要領でセミナーを開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

※いずれも、入場無料、予約不要。

第一研究グループセミナー 「時間と神経 -学習機能のメカニズム-」

日時：2014年03月04日（火）18:30~19:30

会場：山口大学小串キャンパス医学部記念会館 霜仁会館3階
(宇部市南小串1-1-1)

演題：

- ・『海馬シナプスの多様化と脳内への記録メカニズム』
美津島 大 教授（山口大学大学院医学系研究科）

演題：

- ・『幸福の規範化と、私的な逸脱』
青山 拓央 准教授（時間学研究所）
- ・『ディオノドロス・クロノスの様相理論と時間』
脇條 靖弘 教授（山口大学人文学部）

時間学特別セミナー 「多様体補正法による力学系の の長期間数値積分」

日時：2014年03月13日（木）15:00~16:00

会場：山口大学吉田キャンパス 総合研究棟3階
フォーラムスペース（山口市吉田1677-1）

演題：

- ・『多様体補正法による力学系の長期間数値積分』
福島 登志夫 教授（国立天文台・天文情報センター長/
時間学研究所・客員教授）

第三研究グループセミナー 「哲学の視点から」

日時：2014年03月06日（木）14:30~16:00

会場：山口大学吉田キャンパス 総合研究棟3階
フォーラムスペース（山口市吉田1677-1）

本研究所 明石真教授の著書 『体内時計のふしぎ』が出版されました。



光文社新書 777円(税込)

《目次》

- ・まえがき
- 【第1章】 体内時計と現代病
- 【第2章】 体内時計が関係する病気
 - <体内時計と睡眠障害>
 - <体内時計と肥満・糖尿病>
 - <体内時計とガン>
 - <体内時計と循環器疾患>
 - <体内時計と気分障害>
 - <体内時計と認知症>
 - <体内時計と生殖機能低下>
 - <体内時計と老化>
- 【第3章】 体内時計で病気を予防する
- ・あとがき

あなたも心身の健康を、「体内時計」から考えてみませんか？